

2015 年度 事業報告書

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

I 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

地域における環境保全の推進を図ることを目的として地域市民へ伝え、大ぜいの“もったいない”の思いを集め、WE ショップを拠点にリユース・リサイクル事業を展開し、資源の有効活用を図り地球環境の保全を目指します。

『基本方針』

- 1) WE ショップ星川店、天王町店を拠点としてリユース・リサイクル事業をすすめ、資源の有効活用を図ります。
- 2) 地球環境の保全をめざして、行政・企業・商店会や地域の運動グループ・団体と連携し活動をすすめます。また、地域内循環による CO₂削減を目指します。

『事業内容』

- (1) WE21 ジャパン・ほどがや(以下 WE ほどがやと称す)の拠点、「WE ショップほどがや星川店」「WE ショップほどがや天王町店」を運営し、心地よいショップづくりと安定した事業を目指しました。
 - ①星川店・天王町店ともスタッフ 3 人体制が充実し、円滑なショップ運営が進みました。ショップ相互で独自性ある年間計画を立て、マンネリ化にならない運営への意識が高まりました。特にイベントや企画の開催情報はお客様に定着し、期間中の品出しの工夫も功を奏して売り上げ増に結びついています。
 - ②ショップ会計をより明確にスタッフが把握し、会計の責任を分散する目的で、1 日の売り上げをスタッフが ATM に入金(お札のみ)する作業を 7 月から開始しました。同時に、活動日誌を改訂し、日々の作業の簡素化、明確化を図り、軌道に乗りました。
 - ③危機管理については、防災・防犯マニュアルの掲示、鍵の所有者の確認などを行い、スタッフ・ボランティアとも共有しました。また、ショップで 1 人にならない対策として、理事メンバーが夕方ボランティアに入る体制づくりを進めました。
 - ④日々の活動の担い手であるボランティアの増員を図るために、チラシ配布や「この街クラブ」での地域発信を行い、また友人からの紹介などで増員につながりました。しかしながら、ショップ業務をバランス良く進めるため、特に夕方の時間帯を複数体制にすることが急務です。活動の趣旨を伝えながら機会をとらえ、積極的に声をかけていきます。
 - ⑤共通チラシの一斉チラシ撒きを 6 月に予定していましたが、天候不良で実施できず、理事・スタッフ・ボランティアが自宅近隣に 2000 枚配布しました。寄付品、ボランティア増に向けて、地域を見極め、タイミング良くチラシをまく対策が必要です。
- (2) 貴重なる寄付品の新たな価値をさらに生かす場として、地域市民の参加の場となる WE ショップ機能を目指すため、討議をすすめました。拠点となる情報を得て事業性を検討した結果、実現には至りません

でした。引き続き検討していきます。

(3) 寄付品を有効活用し環境に配慮した活動をすすめました。

①リユース・リサイクル部会を定例開催しました。新たに、リメイク企画チームを同部会のメンバーとしました。リメイクの今後の新たな展開を目指す共育の場としていきます。

②リメイクチームの参加ルールと、リメイクチーム活動であるリメイク品製作や販売のルールを明確にしました。チームメンバーによって次々と生み出される作品は、寄付品に新たな命を吹き込み、お客様にも好評で事業の多大な担い手となっています。今後はメンバーを広げていく広報の工夫が必要です。

③体験講座を毎月開催し、多くの市民の参加がありました。体験講座の参加費を統一しました。

・ぞうりチーム:より身近な素材利用として、Tシャツを利用した講座を行いました。

・さきおりチーム:織り機を使った講座にて、より高度な作品となりました。

・リメイクチーム:季節感を反映し、一作品作成に連続講座を開催しました。(詳しくは資料参照)

④リメイクWE講座「リメイクを通じてこれからの『生き方』『逝き方』を考える」を開催しました。

⑤リユース・リサイクル部会メンバーが、市民活動センター アワーズで開催された「ほ도가や街の学習応援隊フェスタ」(9/6)「エコサポーター講座」(8/28、9/4、9/11、9/25)に講師として参加しました。

⑥市民活動センター アワーズ主催による「区民ギャラリー作品展」(8/24～9/1)にリメイクチームの作品の数々を出展し、WEの活動をアピールしました。ほ도가や生涯学習フォーラム実行委員会と保土ヶ谷区の主催による「ほ도가や生涯学習フォーラム まなぶん祭り」(11/28・29)の体験コーナーに「古布を使ったラグ・シュシュ作り」で参加しました。

(4) 寄付品、リメイク品、フェアトレード品の在庫管理の徹底を図りました。

(5) WE 油田(使用済み天ぷら油回収)の活動を継続しました。

油田(使用済み天ぷら油)回収量	星川店	230 kg	(CO2削減量	598 kg)
	天王町店	352 kg	(CO2削減量	915 kg)

(6) WE21リメイク連絡会に参加し、他地域NPOとの情報を共有しました。

(7) WEフェスタ春(3/5,6)に参加しました。

出品数 145点 売上金額 43,750円 販売数 61点

リメイク体験コーナーに講師として参加しました。

(8) 中区寿町で活動する「寿支援者交流会」へ、衣類、日用雑貨等を寄付しました。

【日時】 (ショップ運営)

星川店 2015年4月1日～2016年3月31日 月曜日～金曜日(土、日、祝日休み)

天王町店2015年4月1日～2016年3月31日 月曜日～土曜日(水、日、祝日休み)

(他 活動) 2015年4月1日～2016年3月31日

【場所】 WE ショップ星川店・天王町店、その他神奈川県内・保土ヶ谷区内

【従事者人数】 スタッフ星川店3名、天王町店3名、リユース・リサイクル部会 7名、他ボランティア

【受益対象者】 主に保土ヶ谷区内の市民

【支出額】 13,329,987円

II アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業

アジア等に暮らす市民、そして支援先の人々と連携し、NPO や NGO 等により入手した情報を発信し、平和への関心を高め広めていきます。

『基本方針』

- 1) 支援先の人々と交流・報告会を通して課題を共有し、支援事業の共育の充実を図ります。
アジア等の人々の生活向上と自立のための活動を支援します。

『事業内容』

- (1) NGOによる現地プロジェクトへの支援を継続し、支援・平和チームのメンバーがイヤマン、BGA、インド、シェアの各支援連絡会に参加し、支援先の情報共有を図り、支援活動につなげました。
 - ①イヤマンのレインボーキャンペーン(12/1~20)に参加し、店頭募金8,704円を寄付しました。また、支援地区の台風被害による水ホース復旧支援に2万円を寄付しました(3月)
 - ②インド大洪水復興支援として1万円寄付しました(9月)
 - ③WE21、他地域NPOとの連携でインドのインターン生受け入れを3日間(6/13・18・24)行いました。橋樹神社の祭りやリメイク講座などの体験を通して、理事やスタッフ、ボランティアと交流しました。
 - ④BGAモニタリングツアー(10/11~15)とインドモニタリングツアー(2/12~19)にメンバーが参加し、報告会を開催しました。
- (2) “世界貧困撲滅キャンペーン”に参加しました。

10月1日~17日の『貧困なくそうキャンペーン』に向けて支援チームで内容を検討し、スタッフ、ボランティアの事前学習会を実施しました。児童労働の現状を学び、それぞれのショップでアピール方法を考えました。ショップではチラシ配布とともに、参加型でお客様に「児童労働を生み出す要因」「私たちにできることは何か」など考えて頂くように、模造紙やシールを使った掲示を工夫し、多くのお客様の参加を得ました。10月17日(星川店は16日)の世界貧困撲滅デーの売り上げ82,497円、店頭募金2,440円を「認定NPO法人ACE」に寄付しました。

国連で決定した次の目標であるSDGs(持続可能な開発目標)に向けて、日本国内でも広がる貧困問題も含め、「貧困なくそうキャンペーン」の在り方を考えていきます。
- (3) 公正な価格で購入したフェアトレード品の販売をしてフェアトレードについての理解を広めました。

天王町店でフェアトレードフェアを5月と12月に開催しました。12月には日常扱っているフェアトレード品(ジンジャーティ、カピタコ、紅茶、アシーラ石けん)に加え、(特活)シャプラニールや(特活)オックスファム・ジャパン、東北支援グッズなどのバラエティに富んだ品を扱い、ポップなどを使用して販売コーナーのアピール方法を工夫しました。
- (4) 「3, 11を忘れない」活動として、(特活)FoE JAPANの「福島ぽかぽかプロジェクト」へ毎月11日の売り上げの30%と、3月11日の売り上げ全額、店頭募金、「日本と原発」上映会の収入の一部を寄付しました。

また、11月21~22日には猪苗代の保養プロジェクトのボランティアに理事・スタッフ7人が参加しました。シェアハウスでの食事作りなどで9家族26人(内子ども18人)と交流し、3.11を忘れない思いを新たにしました。繋がりが深まったこともあり、今後、WEほどがやとして何ができるか、支援の継続性を踏まえ

た新たな協力の方法を考えていきます。

3月11日には、ぽかぽかプロジェクトの写真やチラシ、新聞の切り抜きなどをショップに掲示し、また飯館村のDVDを流して福島の実況と支援の大切さを伝えました。東北支援グッズ(いわき食彩館)を年に3回販売しました。

(5)「アジア・友だち・みらい貯金」を会員・地域市民に呼びかけ、寄付文化を高める取り組みをしました。

貯金箱 7個を寄付しました。

(6) ネパール大地震の情報を収集し、緊急支援として(特活)シャプラニールに5万円寄付しました。

(7)カンボジアの都市・農村で住民活動に取り組む女性達との交流、連帯を目的としたツアー(3/18～24)の企画の趣旨に賛同し、現地女性がワークショップに参加する移動費が必要とされていることに対し 2万円を寄付しました。

(8) 安保法案成立に反対し、非戦の思いを市民や政府に届ける運動を広げるために「NGO非戦ネット」に団体として賛同しました(7月)「安保法廃止を求める統一署名」を店頭で実施しました(11月～4月)。

(9) ジュマ・ネットの団体会員を継続し、世界同時署名キャンペーンに協力しました。

(10) 平和についての学び、現地視察についての企画を支援チームで検討しましたが、今年度は東日本大震災から5年にあたり、原発被災者支援の打ち切り、原発再稼働の動きもあることから、「日本と原発」の上映会とし、広く市民に問いかける内容としました。

支援先	プロジェクト名	助成金	寄附金	募金
IYAMAN.INC (フィリピン)	環境教育プロジェクト	終了		
	バクダガン地区 水の復旧緊急支援			20,000
	レインボーキャンペーン			8,704
WE21ジャパン (フィリピン)	-先住民族の命と暮らしと文化を守る- ルボ村鉱山開発跡地の環境回復の ための植林と環境活動	170,000		
DRCS (インド)	農村地域女性のエンパワメントを目的 とする DRCS の既存プロジェクトの 追加活動 大洪水復興支援	120,000		10,000
認定NPO法人 シェア (タイ)	タイ-ラオス国境地域におけるHIV 予防 啓発及びケアプロジェクト	100,000		
認定NPO法人 ACE インド・ガーナ	「ピース・インド」プロジェクト		82,497	8,622
認定NPO法人 FoE JAPAN	福島ぽかぽかプロジェクト 福島の子どもたちの保養プロジェクト		274,115	38,552
認定NPO法人 幼い難民を考える 会 (カンボジア)	みんなで布チョッキン カンボジアの子どもたちの遊具作りの お手伝い			20,000
(特活) シャプラニール	ネパール大地震緊急支援			50,000

企業組合 ワーコレ・キャリア	くらしのサポート事業 はっぴい&キャリア	10,000		
さくら共同事務所	「日本と原発」上映会	20,000		
	合計	420,000	356,612	155,878

【日時】 2015年4月1日～2016年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 支援チーム5名、天王町店スタッフ3名、星川店スタッフ3名

【受益対象者】 一般市民、支援先の住民

【支出額】 1,049,984 円

Ⅲ 地域市民の国際的な問題意識の向上を図る事業(共育事業)

WE ほどがやの活動を広げ、理解を深めるため地域市民に呼びかけ学びます。また、WE21 や各 NGO と連携し活動や世界情報を共有します。

『基本方針』

- 1) WE ほどがやの活動の一環である資源のリユース・リサイクル事業、支援事業、また適時に社会問題について学びます。
- 2) 会員・ボランティア相互の共有を図ります。

『事業内容』

(1) WE 講座を4回開催しました。

①「インドモニタリング報告会」を総会の前に開催しました。

②「日本と原発」上映会

原発再稼働の動きが進められている今こそ、ひとりでも多くの人に日本の原発の実情と社会構造を知ってもらいたいと、WE21旭との共催で、ドキュメンタリー映画『日本と原発』上映会を実施しました。それぞれの会員、ボランティア、地域の関係団体などへの呼びかけや新聞社やタウンニュースなどへのプレスリリース、HPやメールリスト、フェイスブックなどへの掲載などが功を奏し、当日券の多さにもつながり、290人の参加がありました。途中、機械不具合による映写中断となり、準備段階の不備などの反省材料がありましたが、アンケート(102枚回収)では、上映したことへの共感や次回への期待の声が多かったことから、今後の活動への励みとなりました。他地域NPOとの連携も今後へつながる貴重な経験となりました。原発に頼らない社会への転換に向けて、WEほどがやとしてアピールを続けていきます。

③「みんなで布チョッキン」

カンボジアの子ども達に遊具を届けるお手伝いをする認定NPO法人「幼い難民を考える会」の「みんなで布チョッキン」の講座と作業を行いました。13人の参加者が活動紹介のDVDを観た後、人形 10 体(男の子 5 体、女の子 5 体)、ボール大小 20 個のセットを作りました。

店頭での募金と参加費と合わせて 2 万円の寄付をしました。ボランティアさんからの呼びかけなどで初めての方が 3 人参加しました。

- ④リメイクWE講座「リメイクを通じてこれからの『逝き方』と『生き方』を考える」
 「NPO法人新横浜ライフサポート」「一般社団法人 これから楽交」の方を講師に、
 故人への思いを棺に込める新しい葬儀の形を知り、自分らしい最期を迎えるためのリメイクの
 活かし方を学ぶワークショップを行いました。

開催日	内容	開催場所	参加人数
5月17日	インドモニタリング報告会 講師:WE21ジャパン・みなみ理事 河野秀子氏	市民活動センター アワーズ	24人
1月9日	「日本と原発」上映会	保土ヶ谷公会堂	290人
2月24日	みんなで布チョッキン (活動紹介のDVDを見た後、カンボジアの子どもたちの遊具づくりのお手伝い) 認定NPO法人 幼い難民を考える会	保土ヶ谷公会堂 会議室	13人
3月19日	リメイクWE講座「リメイクを通じてこれからの『逝き方』と『生き方』を考える」 講師:NPO法人新横浜ライフサポート 井上秀一氏 一般社団法人 これから楽交 安田かほる氏	市民活動センター アワーズ	13人

- (2)会員、ボランティアとの交流を深める場、おおぜいの参加によるサロンは実施できませんでしたが、
 星川店ではボランティアの親睦会を開催し、共育の場としました。

【日時】 2015年4月1日～2016年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 理事8名

【受益対象者】 一般市民、会員、ボランティア

【支出額】 113,508 円

IV WEほどがや事業の広報普及を図る事業(広報事業)

WEほどがやの活動の理解を深めるため、地域市民へ情報の受発信に努めます。

『基本方針』

- 1) WEほどがやの活動を伝え、広めるための広報をしていきます。
- 2) 広報の充実を図り、多世代にわたる市民への受発信に努めます。

『事業内容』

- (1) 広報の充実を図りました。

①地域市民に広く活動を知らせる「ほどがやニュース」51号、52号、53号を発行しました。

イベントなどの内容・情報を事前に掲載できるよう意識して作成しました。外部からの情報収集や取材によるニュース獲得に努めることが今後の課題です。セールチラシ、寄付品チラシなどを配布し、寄付品提供につながりました。

②読売新聞の「この街クラブ」にショップの情報を投稿していましたが、残念ながら2月で発行休止になりました。

③三つ折カラーパンフレットを増刷しました(2000枚)。支援先の表の2014年度版を作成しました。

(2) WEほどがやのホームページ・ブログの更新をしました。タイムリーで効果的な情報発信を心がけました。行政や他事業者の広報媒体をどう活用していくかが課題です。

(3)ショップ内外に展示するパネル、ポスター、看板等は効果的な掲示を意識して進めました。より多くの人にWEの活動が伝わるような工夫が必要です。

【日時】 2015年4月1日～2016年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区

【従事者人数】 広報チーム4名、理事8名、ショップスタッフ6名

【受益対象者】 一般市民

【支出額】 78,496円

V 事業を实践するための組織活動

15年を経過したWEほどがやは、実践の経過を経て地域への定着を見る事ができました。さらなる組織力を高め、大ぜいの参加のもと、WE21を理解し、ほどがやらしさ、元気力をモットーに活動をすすめます。

『基本方針』

- 1) 組織の充実を図り経営基盤を高めます。
- 2) 雇用者との情報を密にし、よりよい働き方をめざします。
- 3) 行政、企業、他団体・その他地域グループの企画に参加し、ネットワークを広げ活動を共有します。

『事業内容』

(1) 組織の要となる理事会を開催し経営基盤を高めるように努めました。

① 理事会を定例開催し、情報共有を図りました。

② 代表者ミーティングを定例開催し、会議運営のスリム化に努めました。理事会の時間短縮に向けて、議案の事前配布を心がけました。さらなる工夫と努力が必要です。

③ 2015年度より毎月の「理事会通信」の発行はできていません。

④理事メンバーの名刺、WEほどがやの名入りの封筒(大・小)、スタンプを新調しました。

(2) 会員拡大をすすめました。

正会員拡大 期首 個人 58名 団体 1団体 →個人 59名(目標:70名)

団体 1団体(目標:2団体)

賛助会員拡大 期首 個人 6名(10口) →個人 14名(目標14名) 団体0(目標:7団体)

正会員拡大目標は70名でしたが、期首から1名増の59名にとどまりました。賛助会員はボランティアなどへの地道な声かけにより、目標人数に達しました。今年度、会費未納者0になったことは大きな成果です。活動への賛同が広がって会員増につながるよう努めます。

- (3) 運営の充実とショップ事業を円滑にすすめるため雇用を促進しました。
 - ①チーフスタッフの負担軽減のため 4月から新たな雇用契約内容の実施を開始しました。
 - ②ショップ運営を円滑にすすめるために、ショップスタッフミーティングを毎月開催し、報告書を理事会に提出し共有しました。
 - ③6月に拡大スタッフミーティングを開催し、会計作業、活動日誌改訂に向けての話し合いと情報共有、危機管理マニュアルの読み合わせを行い、その後の活動につなげました。
今後は合同スタッフミーティングを適宜開催し、より速やかな情報の共有と課題の解決につなげるよう努めます。
 - ④天王町スタッフが、WEショップ海老名店で1日研修を実施しました(6/30)。
- (4) ショップ運営の担い手であるボランティアとの共有の場、交流の場を理事やスタッフで検討しましたが、全体での実現には至りませんでした。ボランティア拡大目標40人に対して 38人です。
 - ① ボランティア希望者への対応をボランティアマニュアルとともに確認しました。
 - ② スタッフはボランティアニュースを毎月発行しメンバー相互の共有を図りました。
 - ③ 12月に、日頃のボランティア活動に感謝してサンキューチケットを配布しました。
- (5) 認定NPO法人としての具体的な動きはつくれませんでした。ホームページで寄付控除の案内を掲載しましたが、市民の認知と理解が広がるような積極的な情報発信はできませんでした。今後の課題です。
- (6) WE21の他地域NPOとの情報共有の場であるWE21ジャパングループ会議、エリアスタッフ会議 南部エリア連絡会に参加し、活動の情報交換、連携に努めました。
- (7) 地域における団体・グループ、行政が行う企画へ参加し、地域に住む多様な人々と連携してまちづくりを進め、相互に影響しあえる社会、仲間づくりを目指しました
 - ①NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会、特定非営利活動法人リロードからの就労支援の受け入れ(4人)、明治学院大学生インターン生の受け入れ(2人)、岩崎中学校生徒の職場体験の受け入れ(4人)、WE21のスタッフ研修の受け入れ(1人)を行いました。
 - ②「かながわ生き活き市民基金」による事業指定助成プログラム「エラベル」登録団体の「企業組合ワーカー・キャリア」のくらしのサポート事業の趣旨に賛同し、1万円を寄付しました。
 - ③「保土ヶ谷・西まちづくり協議会」に参加し、相互の活動共有をはかりました。6月には講演会「地域にあったらいいねを実現するために(講師:友沢ゆみ子氏)」を開催しました。
 - ④ほどがや生涯学習フォーラム実行委員会への参加
11月28・29日の「まなぶん祭り」体験コーナーに「ラグ・シュシュ作り」、またパネル展示によりWEの活動をアピールしました。
 - ⑤ほどがや市民活動センター アワーズ の協働運営会議へ参加しました。
 - ⑥保土ヶ谷区魅力ある地域まちづくり事業「ほどがや 人・まち・文化振興会」へ参加しました。
 - ⑦横浜市内在住65歳以上の方対象の割引制度「濱ともカード」、子育て家庭応援事業「ハマハグ」の協賛店として継続しています。

【日時】 2015年4月1日～2016年3月31日

【場所】 保土ヶ谷区内

【従事者人数】 理事8名、星川店・天王町店スタッフ6名、

【受益対象者】 一般市民、会員、ボランティア

【支出額】 829,124 円

以上